



住みよい町づくりへ
議会と住民をつなぐ

第**59**号

平成25年10月16日

河津町議会だより



平成25年度 会場型防災訓練 (応急手当)

主な内容

- 平成25年第3回定例会(要旨)・決算審査特別委員会…………… 2～3 P
- 町長行政報告(抜粋)…………… 4 P
- 一般質問…………… 5～9 P
- 議会の動き…………… 10P

平成25年 第3回定例会 (要旨)

第3回定例会は9月11日～20日まで開かれた。初日は町長の行政報告と4名の一般質問が行われ、2日目には1名の一般質問が行なわれた。議案は報告案件2件、専決処分1件、条例案件1件、補正予算3件が審議され、すべて原案通り可決承認した。24年度決算認定9件の議案は、決算審査特別委員会に付託された。

可決された条例、補正予算など、その他

- 報告第4号 24年度決算に基づく健全化判断比率の報告 健全化判断比率は規準値以下である。
- 報告第5号 24年度決算に基づく公営企業の資金不足比率の報告 公営企業(水道事業会計・温泉事業会計・国民宿舎「かわづ」)の資金不足比率はなし。
- 承認第3号 専決処分の承認(国民健康保険条例の一部改正) 地方税法の一部改正に伴う条例改正 (全員承認)
- 議案第48号 職員給与に関する条例の一部を改正する条例 新型インフルエンザに対する派遣・対応について手当を追加するもの。(全員賛成)
- 25年度一般会計補正予算(第2号) 歳入歳出総額に36,538千円を追加し総額をそれぞれ3,847,091千円とする。(全員賛成)
- 25年度土地取得特別会計補正予算(第1号) 歳入歳出に1,333千円を追加し、総額をそれぞれ1,958千円とする。公用地の運用、立木等売却収入である。(全員賛成)
- 25年度介護保険特別会計補正予算(第2号) 歳入歳出に3,729千円を追加し、総額をそれぞれ768,174千円とする。24年度交付金の精算によるもので繰越金を財源とするもの。(全員賛成)

可決された24年度決算(議案第54号～第62号)

決算額(単位:千円)

	歳入	歳出
河津町一般会計	3,785,162	3,529,693
河津町駅前広場整備事業特別会計	9,418	8,783
土地取得特別会計	648	323
国民健康保険特別会計	1,421,059	1,318,248
介護保険特別会計	771,477	751,937
後期高齢者医療特別会計	93,232	90,230
国民宿舎「かわづ」運営事業特別会計	6,393	6,393
水道事業会計	収益的収入 177,699 資本的収入 61,824	収益的支出 168,922 資本的支出 102,878
温泉事業会計	収益的収入 112,838 資本的収入 1,050	収益的支出 108,512 資本的支出 7,222

決算審査特別委員会・意見書

13日～19日まで決算審査特別委員会が開かれた。議案第54号～第62号を審査した。意見書を附帯し、本会議で萩原清男特別委員長の報告をうけ、全員賛成で認定した。

決算審査特別委員会意見書

1. 公共建物の耐震化を進め、避難場所にも使用できるよう有事に備えられたい。
2. 町税等の滞納については、法的措置にそって徴収努力をはかられたい。
3. 大滝遊歩道については、世界ジオパーク認定に向かっているので、引き続き地主との交渉をはかられたい。

8月20日 議員説明会

8月20日に見高浜地区地域振興施設整備事業について説明会が行われた。

施設運営については運営組合に委託をして行なう。委託概要事業内容について、説明を受けた。施設運営は朝市、体験工房、食事、加工品販売、露天風呂などの案が提示された。

一部事務組合報告

下田地区消防組合議会

8月29日に定例会が開かれた。平成24年度下田地区及び西伊豆広域消防組合のそれぞれ決算認定、火災予防条例の一部改正1件、平成25年度補正予算が審議され可決された。事業報告では2月1日から7月31日まで河津町では火災発生は無く、救急事案は207人。ドクターヘリの運航状況は組合全体からの要請件数は92件、86人の傷病者が搬送された。

また人事案件として、副議長に山本栄議員(西伊豆町)、監査委員として加畑毅議員(南伊豆町)を選出した。



下田メディカルセンター議会

8月29日、定例会が開かれた。管理者より平成24年度の病院事業、介護保険施設事業の実績説明をした。

〈議案〉

認第1号 平成24年度病院事業会計決算

認第2号 平成24年度介護老人施設事業特別会計決算報第2号 継続費の継続年度終了による精算

議第7号 病院事業設置等に関する条例の一部改正

議第8号 介護老人施設の設置に関する条例の一部改正

議第9号 平成25年度病院事業会計補正予算(第1号)

議第10号 平成25年度介護老人施設会計補正予算(第1号)

議第11号 監査委員の選出、渡邊弘議員(河津町)

以上承認及び可決した。

伊豆斎場組合議会

8月27日伊豆斎場組合定例会が開かれた。管理者(下田市長)の行政報告があり、「平成24年度伊豆斎場組合会計歳入歳出決算認定について」並びに「平成25年度伊豆斎場組合会計補正予算」が上程され、原案の通り可決された。

1) 決算内訳

歳入3,603万円ー歳出3,338万円=差引残高265万円

2) 補正予算内訳

歳入、歳出それぞれ185万円を追加し、予算総額3,535万円とした。

第3回定例会 町長の行政報告 (抜粋)



●平成24年度決算について

一般会計決算は、歳入総額37億8,516万2千円余(前年比1.4%、5,176万8千円余減)、歳出総額35億2,969万3千円余(前年対比3.8%1億4,041万8千円余減)。差引額2億5,546万9千円余。「健全化判断比率」は、実質赤字比率、連結赤字比率とも非該当。実質公債比率9.2%、将来負担比率17.5%で早期健全化基準を大きく下回る。公営企業の資金不足比率も非該当。

●河津町地域防災計画修正業務委託

県地域防計画が国の防災基本計画の修正及び地震防災緊急事業五箇年計画の変更、第4次地震被害想定の方針を踏え修正されたため計画修正業務委託を682万5千円で契約。

●津波避難対策事業

平成24年度津波避難路への誘導看板設置は7月に見高浜地区に2基完了。伊豆

急河津駅周辺の誘導看板は平成26年1月までに設置予定。笹原地区ケサガ久保の津波避難地に資材配備。

●可搬消防ポンプ付積載車更新

消防第1分団の積載車購入は7月8日入札、(株)畠山ポンプ製作所と840万円で契約。平成26年3月納入。

●地域活性化関係事業

「よさこい新バージョン(仮称:新生河津総おどり)」の制作を河津町商工会に委託。歌詞の公募は88件応募があり、作成委員会が選考中。

●国民宿舎整備検討委員会

国民宿舎「かわづ」の整備検討について7月に1回目を行い解体費用を示し、今後の方向性を検討。8月に2回目を行い新たな誘客施設の必要性について検討。結果に基づいた整備方針を提言する予定。

●河津バカデル公園の平成24年度決算

(株)河津バカデル公園の決算は508万円の赤字(前年度比193万増)、災害等による七滝観光センターの落ち込み、国民宿舎の宿泊者の減少。公園運営は前年比225万円余赤字減少。

●平成24年度町税収納状況

現年度分の税込額8億6,719万円で前年比3,970万4千円の減。滞納繰越分は2,165万

1千円で前年度比較736万円の増。

●平成24年度国民健康保険特別会計の決算状況

歳入14億2,105万9千円。歳出13億1,824万9千円で差引繰越額は1億281万円。保険税の収納状況は、現年度分2億5,331万円で収納率91.6%。滞納繰越分は2,055万1千円。

●民生児童委員一斉改選

任期3年の民生児童委員が本年11月30日で任期満了となる。地区行政連絡委員に候補者の推薦をお願いし、12月初旬に新しい委員に委嘱書の交付予定。

●平成24年度介護保険特別会計決算状況

歳入7億7,147万7千円、歳出7億5,193万8千円で差引繰越額1,953万9千円。保険料の収納率は95.42%。

●都市計画マスタープラン

平成23年度から策定作業に取り組んだ。「河津都市計画マスタープラン」が8月26日の町都市計画審議会の審議を経て、町長へ答申。20年程度の長期的視点での町の将来像について策定。

●河津中学校校舎耐震補強計画策定業務委託

6月28日業務委託の入札を行い、690万9千円で契約。本年度中に補強工事の実施設計を行い、来年度に耐震補強工事を行う予定。

一般質問

県第4次地震被害想定に対する取り組みは町長一死者がゼロに近い数値を目指す

質問…駿河南海トラフ、相模トラフの静岡県第4次地震被害想定に対する町の取り組みは。

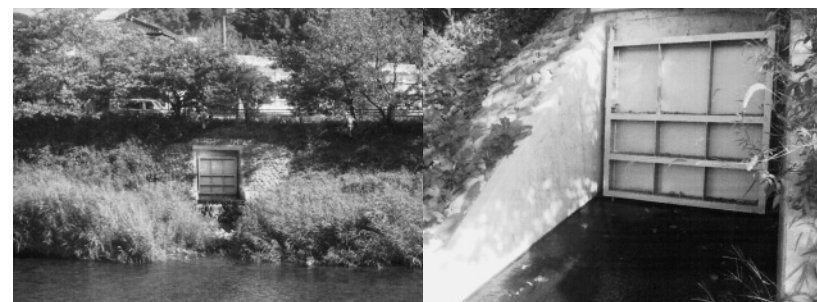
町長…避難路、避難地の整備への補助事業や避難誘導看板の設置を進め、河津川下流域に津波の流入を防ぐフラップゲートを要望し県事業で進めてきた。津波警報を含む災害警報や気象情報を迅速、正確に町民に伝える防災メール発信事業の運用も始めた。今後も町としてアクションプログラムを策定し、死者がゼロに近

い数値を目指していく。

総務課長…地震・津波対策を着実に推進し、一人でも多くの町民の生命を守る為アクションプログラムを柱に防災対策を進めていくことになる。

質問…浜地区は避難地域が城山になっている。南中学跡地を含め避難ビルの計画の具体的な進捗具合は。

町長…浜地区公民館の耐震化については今調査を進めている。まだ指定ビルではないが、南小学校屋上も考えられる。



南小付近：フラップゲート(津波逆流防止扉)

河津桜原木保護の為に計画は

産業振興課長一策定委員会で保護、後継樹を検討

質問…樹齢60年に近づいた河津桜原木の体力、樹力が心配である。保護の為に計画は。町長…河津桜保護育成計画を策定すべき委員会を立ち上げた。委員は農業者、観光、教育分野、樹木医さんなどである。

産業振興課長…現状は根域が狭小で根詰まり状態で、萌芽枝が勢いを増して、樹幹との世代交代が勢いを増している状態と言われている。所有者の理解を得ながら、樹木医や専門家に見て頂き対応している。策定委員会において通称「河津桜守人マスタープラン」を策定の予定、今後の原木保護や後継樹について検討し、計画に反映したい。

質問…原木のDNAの確保



宮崎啓次議員

(クローン)はできているか。保管されているか。産業振興課長…今は情報を持っていない。

水道事業、経費削減の改善策は

建設課長一自然流下方式を上地区で

質問…原子力発電所の稼働が見込めない今、電気料の更なる値上げが避けられない。水道事業全体の電気料はいくらか。ポンプ室を削減し、自然流下方式に改善可能な地域があるか。削減によりポンプの修繕、取替の必要が無くなり、電気料も含め経費の大きな削減になる。

建設課長…24年度の送水にかかる電気料金は全体で2,305万2,945円の決算。上地区は奥原水源を利用して事業に取り組んでいる。他には見高エリアの湧水が優良で豊富な水があれば長野地区まで十分対応できる。水源の可能性を検討していく必要がある。

災害発生後の対策、ボランティアの対応は

町長－町民の生命、財産を守る事を最優先する

質問…災害発生後の復旧対策は。

町長…地域防災計画に沿って、町民の生命、身体及び財産の保護を優先して対応をする。

総務課長…職員災害初動対応マニュアルにより、発生直後の初動対応活動を行うようになっている。

質問…災害ボランティア本部が大変重要な役割を占めるが、立ち上げと、受け入れ情勢、作業内容等はどうなっているか。

保健福祉課長…社会福祉協議会がメインになり災害ボランティアコーディネーターの協力のもと、本部を

第2次給湯事業について

町長－加入者負担の軽減も含め検討中

質問…平成28年4月より第2次給湯が開始されるが、給湯可能地区も含め営業活動ができる事業計画の作成ができるか。

町長…給湯期間は15年程、加入負担金は加入時による段階方式を検討中。

建設課長…給湯可能地区は、下峰、田中、笹原、谷津、浜、見高浜、沢田であります。加入率は41.7%。給湯能力にまだ余力があるので今後は利用の推進につとめたい。

立ち上げます。災害の状況により、第一段階、第二段階と、町内、他市町のボランティアの募集をし、作業の振分け等も含め配置し作業の依頼をします。町内には災害ボランティアコーディネーター連絡会があり、役員は月に2～3回役員会の実施をし、全体会議は2ヶ月に1度程度の開催をして日ごろから災害時に備えております。

総務課長…緊急物資の非常食は1万5千食を確保、その他毛布、発電機等も配備している。仮設住宅地は、旧南中学校跡地、鉢の山地区が候補地となっている。

町政懇談会

町長－町民の意見を活かした町づくり

質問…町民の意見を聞く地区懇談会開催にあたり、町長の心構えは。

町長…開かれた町政を目指し、町民参加・町民本位のまちづくりを進めるという政治姿勢のもと、町民の皆様の意見を聞いて、町政に反映させたい。長期的視野に立って、これからのまちづくりに向けた幅広い意見もいただきたいと、思っております。



渡邊 弘 議員

伊豆縦貫道も視野に着地型観光の推進

町長－河津桜、食、自然、文化を活かす。

質問…伊豆縦貫道も視野に入れた投資計画が必要。着地型観光の取り組みが重要である。観光施設も含め、観光事業者の皆様に施設を営業販売に利用していただくような施策は考えているのか。

町長…河津桜を初め梅、椿等、花を生かした地域づくりの提案。食、自然、文化を活用した観光地づくりを推進していく。

まちづくり推進課長…伊豆縦貫道対策とし、河津を通過してしまうことのないよう、河津に寄る価値感づくりが大切であり取り組む。

産業振興課長…着地型観光の推進の為、観光施設の活用は大切である。文化財、花等、物産販売、体験事業等も含め町内事業者にも周知し、PR活動に努めたい。

地震津波被害想定は

町長－人的被害・物的被害の対応を図る

質問…6月27日静岡県より第4次地震被害予測が発表された。河津町にも甚大な被害が予測される。正しい情報により、正しく理解して、正しく恐れる事が大切である。その内容は。

町長…倒壊・全壊戸数500棟、死者900名を超えるとされる。その対応として、ハザードマップの作成やアクションプログラム等によりしっかりした情報を、町民に知らせる。

質問…地区をよく知り、地区住民との連携が一番強い区長および役員の皆さんと地域防災計画を作り、訓練を重ねて改善する事が必要だ。そのことが減災対策になるはずだ。

町長…町の防災訓練だけでなく、各地区、各組ごとの訓練が非常に重要である。自助努力として、家の耐震化、食糧備蓄（7日分が目安）等がある。

建設課長…耐震診断事業は、24年度18件実施。述べ件数は325件になる。また、耐震補強助成制度もあり、24年度2件が利用。

産業振興課長…地籍調査については、津波浸水官民境界基本調査を26年度から実施する。浜、笹原、谷津、今井浜、見高浜を考えているので対象区域の理解を求

めていく。

質問…もし万が一、被害が発生した場合の対応です。社会福祉協議会と町との協力関係は。社協自体の体制強化にどう取り組んでいくのか。

保健福祉課長…西伊豆町に一般ボランティアをはじめ多くの町民が参加した。町・社会福祉協議会・ボランティアコーディネーター連絡会と日々非常時に備えて、人材育成に対応している。

河津バガテル公園の経営は

質問…23年度の業績と25年度の見込み。再建計画の最終年度ある26年度に向けての改善・達成状況は。

町長…23年度に比べ193万円増の508万円の赤字と大変厳しい決算状況。公園部門では、約225万円の赤字減となった。25年度の第一四半期は、臨時雇用賃金や外注費の抑制などで費用の圧縮がされている。七滝観光センターは前年比の114.6%増の売上。今後も新取締役を中心に経営努力をしていく。再建計画の26年度目標は、現状では、厳しいと考えている。

質問…24～26年の3年間は、再建計画を承認して、多額



土屋 貴 議員

の費用を一般会計から支出している。近いうちに町の支出が減少しないとすれば、再生計画の見直しを含めた新たな対応策が必要だ。

町長…新取締役を迎え、園内のすべての運営とか経営計画等の見直しを進めている。町としても、経営努力による収益向上に向け指導していく。

コンプライアンスの徹底



コンプライアンスの基本理念

質問…町におけるコンプライアンスとは。

総務課長…単に法令順守という事だけでなく、行動規範となるものだと考える。

西小にも放課後児童クラブを

保健福祉課長－現段階では西・東小学校への設置は現実的でない

質問…子どもの成長は早い、子育て関連の複合的施設の検討委員会の進ちょく状況はどうか。他校の父兄から開設の希望もある。

町長…児童関連施設の整備構想検討事業を進めている。放課後児童クラブ（以下放クラブ）は重要事業に位置づけている。

保健福祉課長…児童関連施設整備検討委員会は、現在は庁舎内職員7名のワーキングチームで検討中。今までに2回開いた。その後民間委員で組織する児童整備施設整備検討委員会を立ち上げる予定。子ども・子育て支援事業のニーズ調査をし、26年度に整備構想をまとめる予定。庁舎内チームが検討してきた内容は町内子

育て支援事業の内容・現状と課題の検討、賀茂地区の子育て支援施設の現状把握、施設機能や規模等についてである。

町では放クラブ、子育てサロン、保育ママ支援を集約した施設を想定している。今後は小学校の統合問題、又複合施設の検討も材料となる。これらに基づき施設の機能・規模・場所など検討課題となる。西小、東小の必要性は認識しているが年間800万円の予算を必要とする。現実的でない。今後ニーズを調査し現実へむけての研究課題とする。

質問…充実した心安らぐ環境を創りあげ、自慢できて誇れる放クラブの設置をもとめる。

踊り子温泉会館の町内者利用はもう少し安くないか

産業振興課長－年中無休、ロッカー料金を無料にした

質問…近年の温泉会館の利用率はどうか。利用率をあげるための対策はとられているか。

産業振興課長…平成6年には

踊り子温泉会館利用者数

	利用者	うち町内利用者
平成20年	74,074人	25,106人
平成21年	74,459人	25,114人
平成22年	69,669人	23,916人
平成23年	63,405人	23,753人
平成24年	60,020人	20,225人

112,160人の利用者、過去5年間は表参照。近年は利用者が減少している。収入計画は5年間の実績から算定するが、達成率は減少傾向であ



踊り子温泉会館



小林和子 議員

る。利用者の増加を図るべく老人会等町内各団体の利用PRを進めていきたい。

温泉開館施設設置及び管理運営条例第1条(目的・設置) 温泉資源の有効利用と観光発展並びに住民福祉の向上に資するための会館の設置

質問…高齢者施設の立場からの利用はどうか。

町長…集中管理の温泉事業についてはかなりの温泉がまだ利用せずにある現状。そのことをふまえ有効活用する施設を考えてみる。過去にプールを利用していたができてしまった状況がある。温泉の有効活用の面からも必要性の有無、利用率、運営等の問題など含め検討していきたい。

質問…踊り子温泉管理運営委員会の中でプールの件を議題にして欲しい。

バガテル公園運営事業は

町長－26年度以降公募も視野に入れて検討する

質問…1)第13期決算 2)中期経営計画 3)一般会計より支出した河津バガテル公園管理費のあり方 4)今後の運営のあり方、について経営姿勢は。

13期決算は売上高2億1,400万円、当期純損失500万円、繰越利益剰余金△5,200万円、中期経営計画予算比84.5%である。また過去3ヶ年平成22年～24年度一般会計より支出した公園管理費は、町当局資料より、2億7,400万円である。25年度投資的経費の76%である。この支出がなければ

町の事業の活性化が図れる訳であり、機会損失は甚大である。このまま経営を続ける財政的支援の妥当性は全く感じられない。上場企業であれば、株主総会に於て、責任ある地位、もしくは管理職は即刻責任をとらせられ、辞表問題となる。町長はバガテル公園管理者として、また株主である町民の代表として、どのように考えているか経営姿勢は。

町長…職員は一生懸命努力している。26年度以降公募も視野に入れて検討する。

見高地区振興施設の委託運営は

町長－組合に運営委託し、脱衣室、洗い場の改装は行う本設計は終了

質問…1)組合設立の方法 2)減価償却費の負担と赤字補填 3)露天風呂の脱衣室洗場改装 4)駐車場及び設計について当局の見解は。

町長…町の直営施設として組合に運営委託する。脱衣室と洗い場の改装はしっかり行う。設計は基本設計から本設計まで終了。

産業振興課長…減価償却の負担はない。赤字補填はしない。営業は

年間300日、予定人員7,200人、営業9時～16時、駐車台数14台、テーブル12台、施設の収支は露天風呂、朝市、物販、食事、体験工房となる。



解体の始まったサンシップ今井浜



坪井弘司 議員

小学校の統合推進は

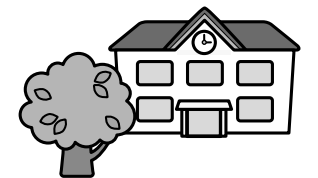
町長－今の段階で統合は考えない

質問…1)第4次統合計画の施策 2)父兄の統合に対する動向

第4次統合計画の施策では、小学校の問題は児童数の減少に、はどめがきかないとして下記の項目による統合の考えは。

- イ) 児童数の減少傾向と教育条件の適正化
- ロ) 高度情報化、国際化、価値観の多様化
- ハ) 不登校、いじめ、障害のある子供達の適切な教育を受けられるサポート体制の充実
- ニ) 子供達の豊かな学校運営や教育の推進

町長…多くの問題をクリアして進めるべきで、今現在この段階では、統合する考えを持っていない。





川下 英一 議長

議会の動き

＜議長の活動＞

- 7月・郡議会議長会
・静岡県市町議会議員
研修会
- 6月～8月・例月出納検査
報告書受領(5・6・7月分)

＜町議会の活動＞

- 7月・民生委員推薦会
・青少年問題協議会
・学校給食運営審議会
・社会教育委員会
・温泉会館管理運営委員会
・西伊豆災害支援(9名
参加)
- 7月～9月・議会広報編集
委員会(誌面作成)
- 8月・議員説明会
- 9月・議会運営委員会

＜一部事務組合＞

- 7月・下田メディカルセン
ター議会全員協議会
- 8月・伊豆斎場組合議会
・下田地区消防組合議会
・下田メディカルセン
ター議会

＜広域連合議会＞

- 7月・静岡県後期高齢者医
療広域連合議会

＜諸会合＞

- 6月・夏季対策連絡協議会
- 8月・都市計画審議会

＜町の行事＞

- 7月・今井浜海水浴場安全
祈願祭

- 8月・河津川鮎レディス&
ペアフェスティバル
- 9月・河津町総合防災訓練

～私モ一言～

かわづ花の会の活動報告 会長 土屋達雄

河津町産業振興課と共に歩む、“かわづ花の会”は花好きが集まって花の町づくりに関わる活動を続けるボランティア団体です。

組織としては静岡県花の会連合会と花咲くしずおか賀茂地区推進協議会(会長河津町長)に属しています。

主な活動は上地区8区11花壇下地区6区10花壇に春・夏用、秋・冬用の各種花苗、球根を用いて年2回各地区が趣向を凝らした花壇造りとその後の管理(水遣り、草取り、花柄摘み等)を続けてます。また“町内花壇コンクール”も実施し、上位入賞花壇は県の花壇コンクールに出展し度々入賞、

昨年は静岡県花の会連合会会長賞を受賞しました。

その他の活動としては、毎年かわづ桜休眠期に剪定講習会受講者をリーダーとした剪定作業。幼稚園児との鉢植え交流と園舎へのグリーンカーテンの設置ならびに花壇整備。河津ふれあいまつりでの会員獲得を願っての寄せ植え講習会。花咲くしずおかアドバイザーを講師に花壇造りの講演会の開催。花の育成・育苗方法等の視察・研修旅行。を定期的実施しています。

これらはいずれも“ボランティア精神を忘れずに”をモットーに努力しております。



花壇コンクール

編集後記

議会だよりも平成11年4月第1号より第59号まで、15年を迎えました。町民の皆様のさらなるご愛読をお願い申し上げます。(坪井)